

コリント
第一
①

「信仰の
成長のために」

コリント人への手紙 I 1章 救いの原則の確認

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 序文 1章1～9節
- II. 救いの原則 1章13～18節
- III. まとめと適用

信仰の成長の道を歩むために



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

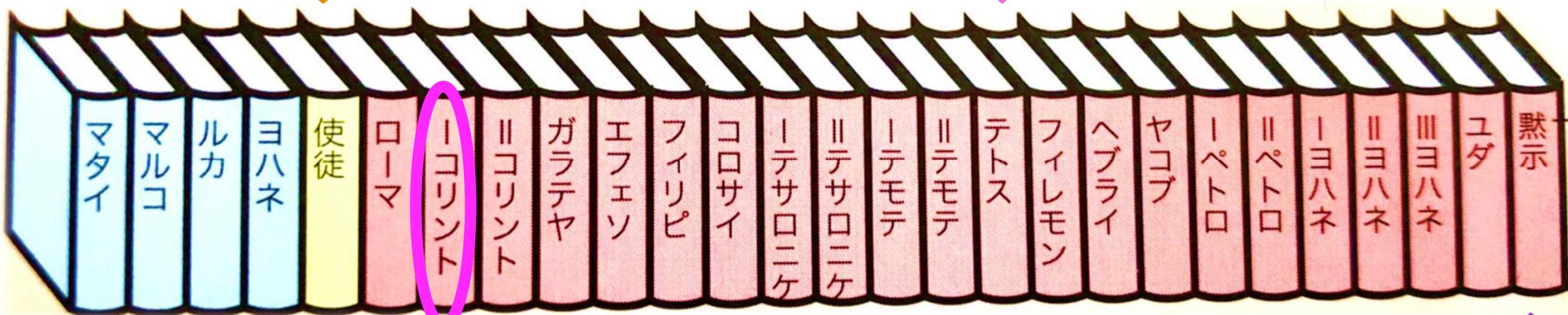
【新約聖書の中の黙示録】

【使徒の働き】

教会の始まり

【書簡・手紙】

使徒たちによる手紙 メシアの教え



【福音書】

メシアの生涯

パウロ書簡

【黙示録】

聖書預言の集大成
終末預言

【福音の広がり】

- 第2回伝道旅行でパウロはギリシャへ
- コリントへの訪問時、パウロの働きから、地域教会が誕生。



【コリント人の手紙とは？】

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。第3回伝道旅行の途中。
- **場所** …長期滞在中のエペソ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。
(離散のユダヤ人と異邦人から)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。





エーゲ海

コリント → ■アテネ

■エペソ

【著者のパウロについて】

- ヘブル名：サウロ(サウル) ギリシャ名：パウロ
- ベニヤミン族。離散のユダヤ人。
キリキア(トルコ)のタルソ出身。生来のローマ市民。
- パリサイ派の律法学者。
稀代の律法教師ガマリエルの弟子。
- キリスト者迫害の先鋒だったが、ダマスコへの途上、
主イエスと出会い、回心。使徒とされる。
- 最初の神学者とも。最も多くの書簡を記す。
- 伝承では、60年頃にローマにて殉教。



【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 奴隷50万人 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。
神殿娼婦の存在も。



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

【ギリシャの宗教と風俗】

- ・ 宗教 …ギリシャ神話。多神教。
人間的な神々が入り乱れ、
混沌とした世界観。
他地域からの神々も流入
- ・ 風俗 …性的規範は皆無。
複数の愛人を持つことや、
少年への性愛も一般的だった。

ギリシャの中でも、混沌の極みの町が、コリント
悪習慣に惑わされるクリスチャンも少なくなかった!!



序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24





I. 序文 コリント人の手紙1章1～9節

【聖徒たちへ】 コリントー1:1~2

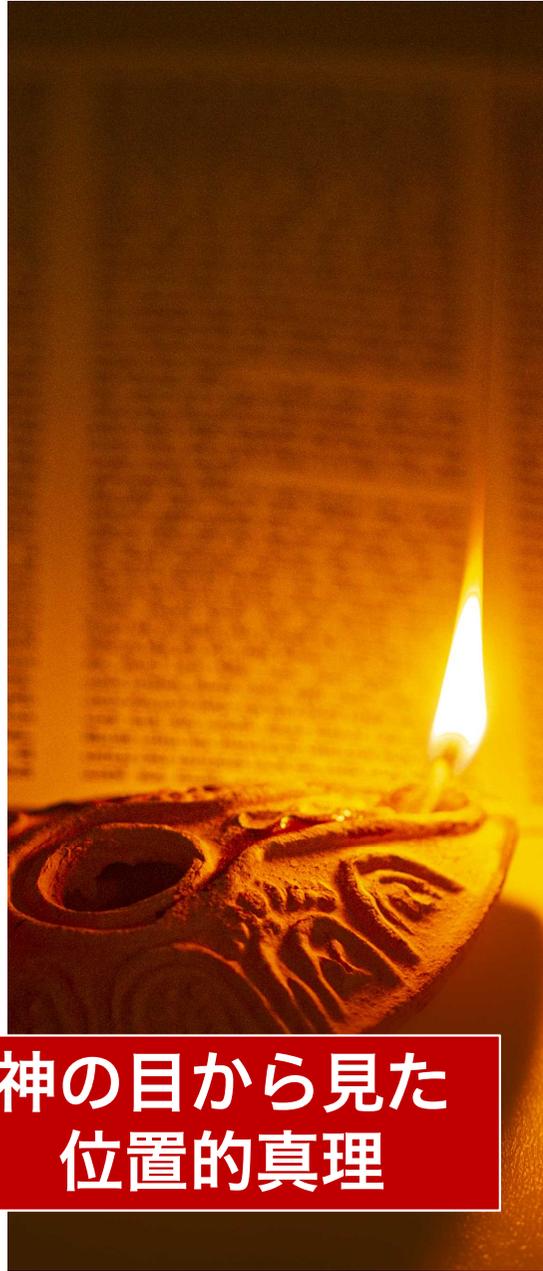
神のみこころによりキリスト・イエスの**使徒***として召されたパウロと、兄弟ソステネ*から、

コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、**キリスト・イエスにあって聖なる者**とされ、**聖徒***として召された方々へ。主はそのすべての人の主であり、私たちの主です。

*復活の主イエスと出会い、使徒とされたパウロ。

*身元不明。…コリント出身？

*キリストの福音を信じた者は、聖なる者。



神の目から見た
位置的真理

【主の恵みと平安を】 コリントー1:3~4

私たちの父なる神と主イエス・キリストから、
恵みと平安があなたがたにありますように*。

私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。

*ヘブル語の挨拶「平安を(シャローム)」と
ギリシャ語の挨拶「恵みを」が合わさったもの。
➡クリスチャンの挨拶に。

■パウロから福音を聞き、信じて救われた。
コリント教会の人々への恵みを覚えての感謝。



【コリント教会の恵み】 コリントー1:5～7

あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識*において、キリストにあって豊かな者とされました。キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。

その結果、あなたがたはどんな賜物*にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れ*を待ち望むようになっていきます。

*聖書のみ言葉。聖書に基づく神についての知識。

*聖霊の賜物…教会の働きのための様々な特性・役割。

*主イエスの再臨。信者の携挙。完全な神の支配。

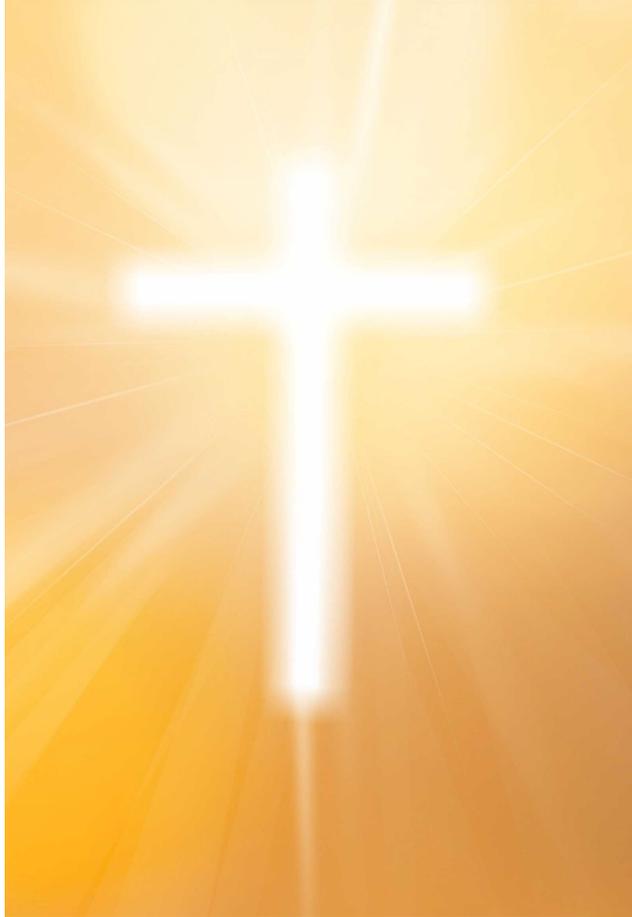


【救いの永遠性】 コリントー1:8～9

主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日*に責められるところがない者としてくださいます。

神は真実*です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられた*のです。

- 真実なる神*の約束は守られる。福音を信じ、主イエスとの永遠の交わりに入れられた*。信者は、世の終わりの大患難*を免れる。



問題山積みの
コリントの信者も
信じて救われている



Ⅱ. 罪の叱責 コリント人への手紙1章10～31節

【本題】 コリントー1:10~11

さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。

私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。



【分派・分裂】 コリントー1:12

あなたがたはそれぞれ、「私はパウロにつく」「私はアポロ*に」「私はケファ*に」「私はキリストに*」と言っているとのことです。

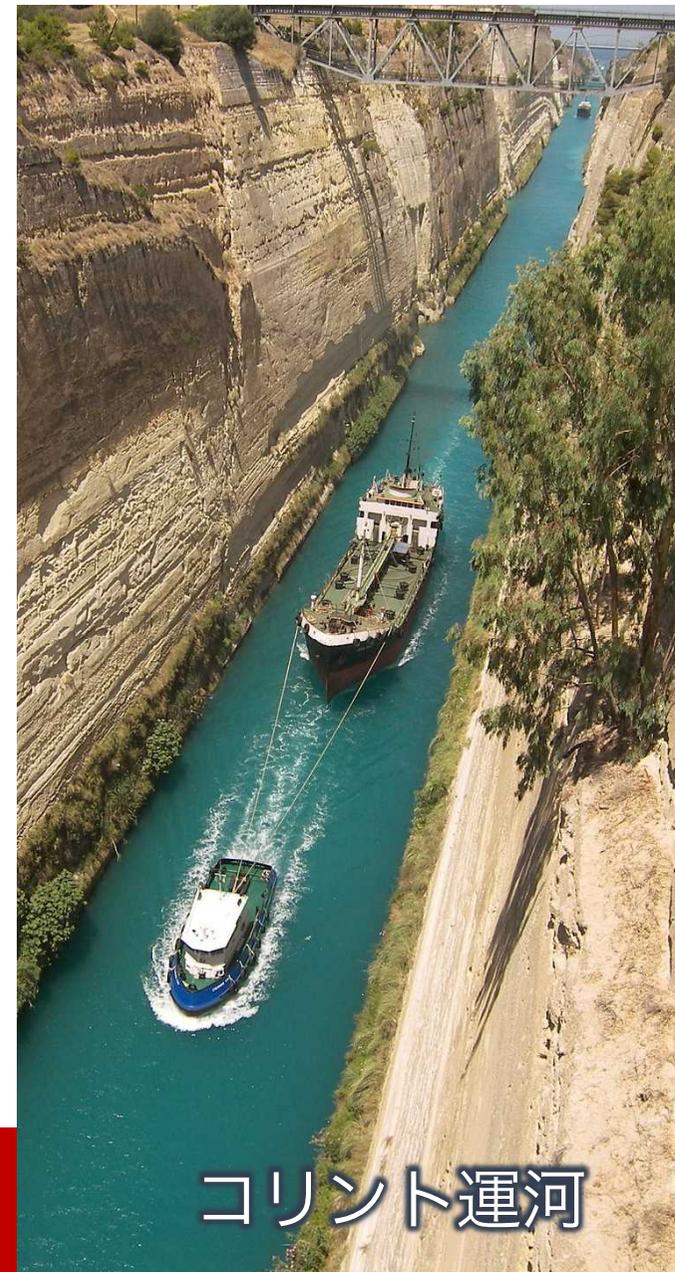
*雄弁家。洗礼者ヨハネの弟子。プリスキラとアキラから福音を聞き、キリストの伝道者に。

*ヘブル語のペテロ(岩)。使徒ペテロのこと。

*私たちこそ本物のクリスチャンだという派？

自分たちだけが正しい → 一番危険!!

分裂の原因は、人間的な好み。感情・感覚。



コリント運河

【分裂の元凶】 コリントー1:13

キリストが分割されたのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。

- 大事なものは主に一致した信仰かどうかだけ。
- クリスチャンの神との仲介者は、
主イエス・キリストお一人だけ!!
- 好き嫌いで判断し、自分の感覚や感情を
絶対化。➡つきまとう罪の本質



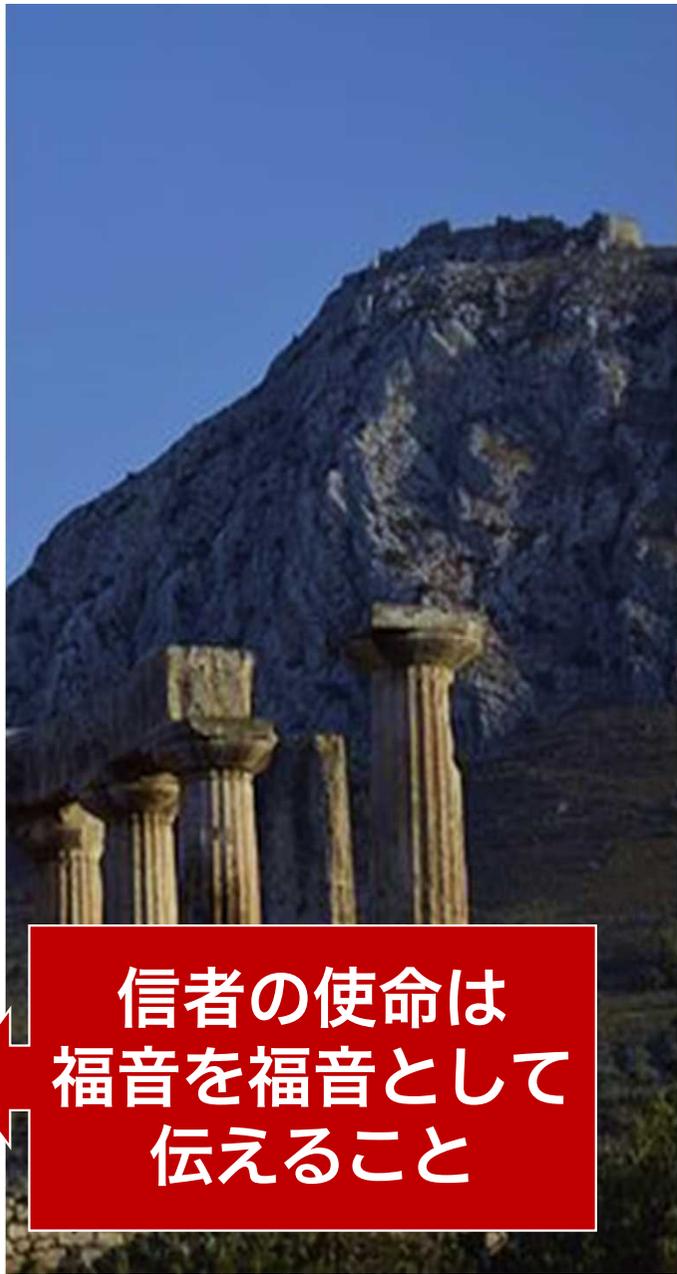
コリントの遺跡
アクロポリスの丘

【パウロの使命】 コリントー1:14～16

私は神に感謝しています。私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けませんでした。ですから、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたとは、だれも言えないのです。

もっとも、ステファナの家の人たちにもバプテスマを授けましたが、そのほかにはだれにも授けた覚えはありません。

キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに**宣べ伝える**ためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。



信者の使命は
福音を福音として
伝えること

【世の愚かさ・神の力】 コリントー1:18~19

十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る*」と書いてあるからです。

*イザヤ29:14 …背きのイスラエルへの戒め

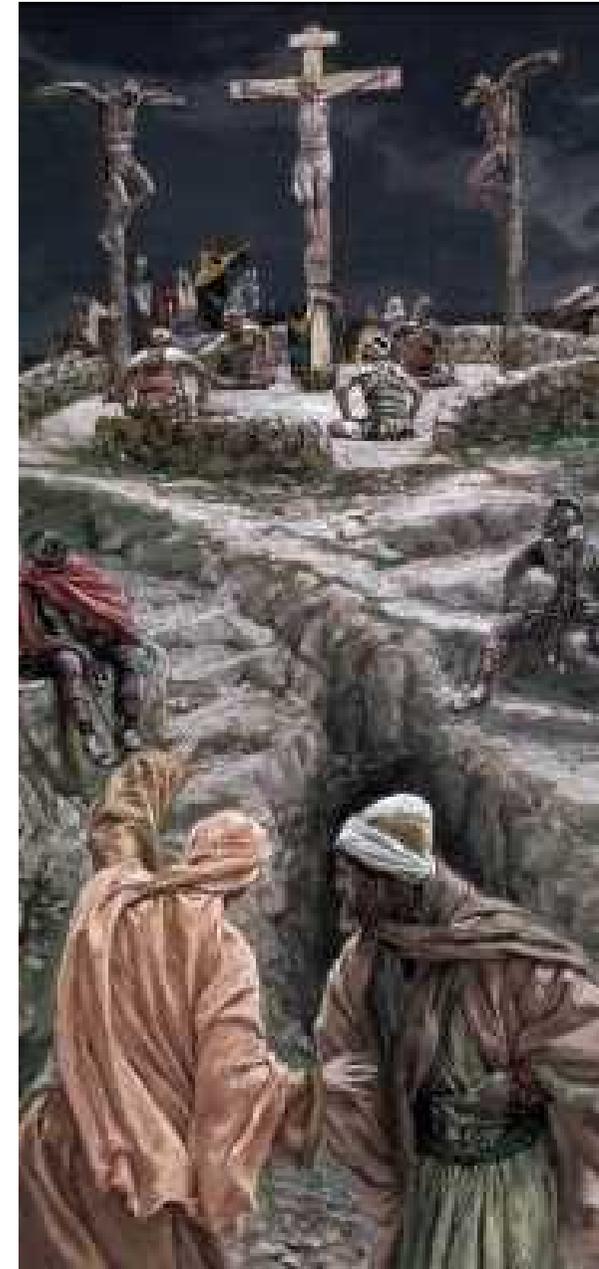
主への信仰に基づかない知恵や悟りはむなし。

■福音を告げる者は、世からは必ず侮られる。

世の受けを求めるな。恥を受けるのを恐れるな。

世にあって愚かとされることを喜ぼう。

私たちのほまれは、主に従う道にこそある。



【宣教のことばの愚かさ】 コリントー1:20～21

知恵ある者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の論客はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、**宣教のことばの愚かさ**を通して、信じる者を救うことにされたのです。

- 人は、自分の知恵で神を知ることにはできない。主の前に、自分の愚かさを知らされ、福音を信じた者だけが、神の知恵と救いを得る。



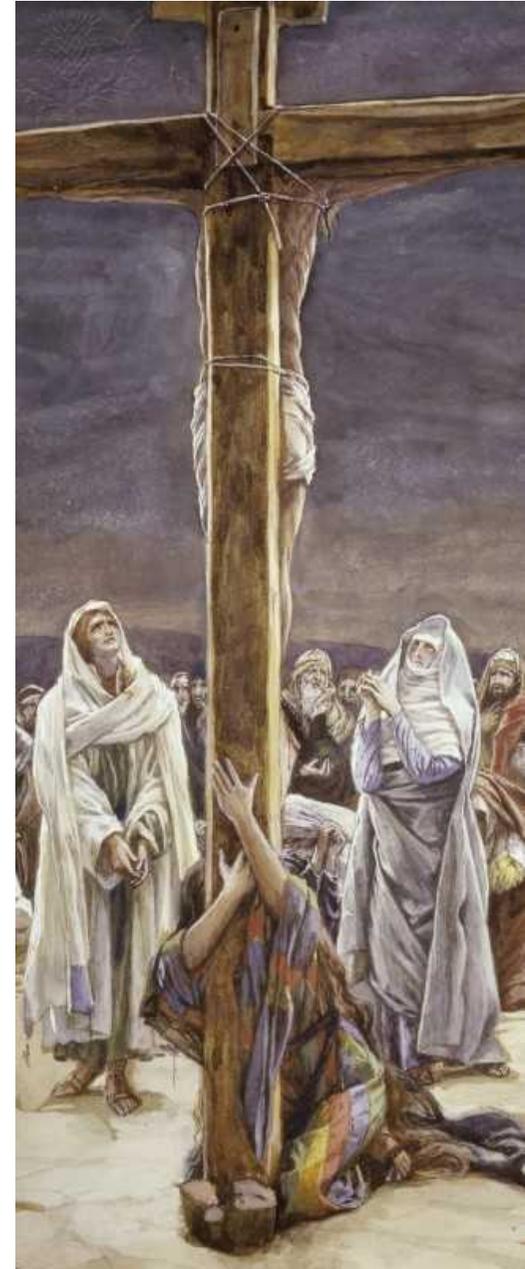
神の目から見た
位置的真理

【十字架キリストだけを】 コリントー1:22～25

ユダヤ人(a)はしるし(b) (神の奇跡・証拠)を要求し、ギリシア人(a')は知恵(b') (人の知恵・知識)を追求します。

しかし、私たちは**十字架につけられたキリスト**を宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。

神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。



【神の選び】 コリントー1:26～27

兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、**この世の愚かな者**を選び、強い者を恥じ入らせるために、**この世の弱い者**を選ばれました。

■ 打ち砕かれた小さな器を用いて、
主は、ご自身の偉大な業を示される。

➡ 聖書を通した、神の選びの大原則。



モーセの召命

【神の選び】 コリントー1:28～29

有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち**無に等しい者を神は選ばれた**のです。

肉なる者が**だれも神の御前で誇る**ことがないようにするためです。

- 世のものは、むなしい。主だけが真実。
- 主がなされたのでなければ、何一つなしえなかったと、思い知らされる者は幸い。



サウロの回心

【キリストのうちに】 コリントー1:30~31

しかし、あなたがたは神によって**キリスト・イエスのうちにあります**。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

「**誇る者は主を誇れ***」と書いてあるとおりになるためです。

***エレミヤ9:23 …大患難時代のイスラエルへの警告**

■ただ主イエスによる罪の贖いを信じて義と認められ、主の目にきよい者とされた。





Ⅳ. まとめと適用 信仰の成長の道を歩むために

【救いの過程を確認しよう】

①認罪 …私は滅びにいたる罪人だと認める。

②義認 …「私の罪のため、主イエス・キリストは十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された。」

→福音を信じて、神の目に義と認められる。救われる。

③聖化 …罪の自覚を深めさせられながら、それでも主に信頼し、内住の聖霊によって変えられていく信仰の成長の過程。

④栄化 …主イエスが王となった神の国で、復活の体を与えられる。完全にきよめられ、罪を犯すことはなくなる。

【コリント人への手紙のテーマは、聖化】

- ただ主イエスの福音を信じて救われた(義認)。
この救いは、主の約束ゆえ、二度と失われることはない。
- 神の目に写っているのは、**栄化**された完全にきよい私たちの姿。
しかし、世にある私たちは、今なお信仰の成長の**聖化**の途上にある。
- 信仰者も、主を離れば、とんでもない大きな罪をも犯しうる。
厳にコリント教会は、様々な罪によって混沌としていた。
- 信じた後、クリスチャンはどう歩いていくべきなのか。
この**聖化の過程**が、コリント人への手紙のテーマ。

【パウロが教える信者の位置的真理】 コリントー1章から

■ **位置的真理とは、神の目には、すでにそうなっているということ。**

1:5 すべての点、あらゆることばとあらゆる知識において、
キリストにあって豊かな者とされた。

1:6 キリストについての証しが、あなたがたの中で**確かなものに。**

1:8 主はあなたがたを**最後まで堅く保ち、主イエス・キリストの裁きの日に責められるところがない者**とされる。

1:9 神の御子、**主イエス・キリストとの交わり**に入れられた。

【パウロが教える信者の**位置的真理**】 コリントー1章から

1:30 あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。
キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

- 様々な罪の指摘と警告の前に、パウロは**位置的真理**を示す。
“福音を信じて救われた。” →これが、クリスチャンの大前提。
- 罪ゆるされ、救われたからこそ、自分の罪の現実に直面できる。
自分の罪に向き合えば、自分の無力さに打ちのめされるほかない。
→ただ主にすがるとしかないと、主を見上げ、主に委ねるとき、
内住される**聖霊**が、私を変えていってくださる。それが**聖化**。

【クリスチャンの今現在の現実を見つめることから始めよう】

- 信じて救われてなお、私たちは罪を犯す。
世の中の基準から言っても大きな罪を犯すことすらある。
- 変わらない位置的真理に堅く立って、自分の現実に向き合おう。
世にあって、クリスチャンは誰よりもリアリストでいられる。
主への信頼に支えられ、平安の内に自分を見つめられるのだから。
- 自分の罪を直視したら、主に委ねるだけだと思い知らされる。
自分の罪を思い知り、謙遜にさせられていくのが信仰の成長。
悔い改めによる神の赦しの特権を、味わい尽くしていこう。

気づかされ、直視し、主に委ねて変えられる。聖化の道を歩もう

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。
私の歩みを、主が堅く守ってくださいます。
主イエスの救いは、決して取り去られることはありません。
罪を知り、打ち砕かれては、悔い改めて立ち返り、
ただ主への信頼の上に、この生涯を歩んでいくことが
できますように。御霊で満たし、導いてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」